

出会える旅へ
記憶の風景に

遠い



しまね 棚田 めぐり旅



Shimane
Tanada
Journey





しまね棚田めぐり旅
山王寺
 雲南市 うんなんし
 さんのうじ

日本の田選
 日棚百選



保全活動

雲海がきれいなふるさとの原風景。伝統文化の神楽が伝わる標高300mからの眺望は絶景。

一言ポイント

棚田百選に選ばれたことをきっかけに、毎年田んぼの学校に取り組んでいます。

島根県無形文化財指定の神楽である山王寺神楽が伝承されており、地域の暮らしの中に豊かな伝統文化が根付いています。

棚田オーナー

- 【募集】毎年4月末まで
- 【作業】田植え(5月)
稲刈り(9月)
- 【料金】1区画(約100㎡)30,000円/年
- 【特典】米60kg

棚田トラスト

- 【料金】10,000円/年/口
- 【特典】米5kg/口、野菜宅配



(年に数回草刈り等を行います)

こんな自然の中で過ごせたことは、とても貴重な経験になりました。

田んぼの学校

5月

田植えコース
(コシヒカリの田植えなど)



9月

稲刈りコース
(コシヒカリの稲刈り)



山王寺本郷棚田 実行委員会

田んぼの学校で地域外から家族が来られたり、子どもの声を聞けるようになったことが刺激になりました。自分たちの住むところをきれいな景色として見てもらいたいという気持ちから、棚田の保全にみんなが取り組むようになりました。

私たち親が一生懸命やっている姿を地区外に住んでいる子どもたちに見せることで、将来は自分たちがこの土地を守りていくという気持ちを引き継いでもらいたいと思います。

DATA

- 【所在地】雲南市大東町山王寺
「JR松江駅」から車で約30分・「JR出雲大東駅」から車で約15分
- 【保全組織】山王寺本郷棚田実行委員会
- 【問合せ先】雲南市農林振興部農業総務課 ☎0854-40-1051
- 【雲南市役所ホームページ】<http://www.city.unnan.shimane.jp/>
- 【概要】田畑の枚数:200枚 面積:19ha 農家数:26戸
起源:戦国時代~江戸時代 棚田の標高差:約120m
- 【イベント】田んぼの学校
- 【棚田米】山王寺棚田舞 問合せ先:山王寺本郷棚田実行委員会(担当:高島) ☎0854-43-5849

しまねの棚田カード参加地区

しまね棚田めぐり旅

追谷

おいだに

奥出雲町 おくいずもちょう




追谷の棚田は、船通山の麓、八俣の大蛇退治で素戔鳴尊(スサノオノミコト)が高天原から追放されて地上に降りてきた鳥上の地である、奥出雲町竹崎地区に位置しています。この棚田は、「たたら製鉄」の名残で、江戸から明治にかけて、山を切り崩して水の勢いを利用する鉄穴(かんな)流しで砂鉄採取をしていた場所で、この砂鉄採取跡地を棚田にし、米作りを行っています。

国の重要文化的景観「奥出雲たたら製鉄及び棚田の文化的景観(2014年3月18日文科科学省)」、日本遺産「出雲國たたら風土記～鉄づくり千年が生んだ物語～(2016年4月25日文化庁)」、日本農業遺産「たたら製鉄に由来する奥出雲の資源循環型農業(2019年2月15日農林水産省)」に選定・認定され、「たたら灯」やフォトコンテストなどのイベントを行うなど、交流人口の創出や棚田保全に努めています。



鉄師ト藏家がたたら操業をおこなった追谷地区。この地で江戸時代から明治時代にかけて、山を切り崩して水の勢いを利用する鉄穴(かんな)流し。これに使われていた水路を利用して今もお生活排水の入らない良質な水とミネラルが多く含まれる土壌で「源流 仁多米こしひかり」が作られています。



一言ポイント

毎年春、秋と10000本のライトで棚田を灯すライトアップイベント「たたら灯」を開催しております。県外からも多くの方が訪れ、季節により変わりゆく棚田を写真におさめていらっしゃいます。



【所在地】仁多郡奥出雲町竹崎
JR松江駅から車で約70分 中国自動車道「東城IC」から車で約60分
【問合せ先・保全組織】追谷自治会
TEL/FAX 0854-52-0851(自治会長 加納信夫)
奥出雲町農業振興課 ☎0854-52-2679

【概要】棚田の枚数:37枚 面積:4ha 農家数:23戸
起源:江戸時代～
【イベント】棚田ライトアップ事業「たたら灯」
(9月下旬～10月中旬)
【棚田米】源流仁多米こしひかり





しまね棚田めぐり旅

大原新田

おおはらしんでん

奥出雲町

おおいずもちょう

日本の田選
日棚百



江戸時代に鉄師「絲原家」が私財を投入し、鉄穴(かんな)流し(砂鉄採取地跡)によってできた土地を畑に造成し、そして田んぼに整備して現在の形になりました。当時の造成技術の高さがうかがわれます。

「棚田への思い」

その昔、山を切り開き、炭を焼いた人々、遠い山から水を引き、砂鉄を採取した人々、たたらを吹き、和鉄をつくりあげた人々、そんな苦労を味わいながら家族で助けあい、この土地を残してくれた先祖たち。先祖への感謝の気持ちで米づくりに精を込め、私たちがここにいます。私たちの願いはこの棚田の歴史と先祖への思いを後世に伝えていくことです。

大原新田棚田
保安全管理委員会



一言ポイント

雑誌に掲載されたり、テレビドラマ「砂の器」の冬景色のロケ地になりました。展望台からの撮影が多く、人気の撮影ポイントになっています。



大原の里の活動はコチラ

OOBARA_NO_SATO

しまねの棚田カード参加地区



DATA

【所在地】仁多郡奥出雲町大馬木大原
「JR松江駅」から車で約60分
中国自動車道「東城IC」から車で約60分
【保全組織】大原新田棚田保安全管理委員会
【問合せ先】奥出雲町農業振興課 ☎0854-52-2679

【概要】田畑の枚数:38枚 面積:4.9ha
農家数:6戸 起源:江戸時代後期～

国の重要文化的景観「奥出雲たたら製鉄及び棚田の文化的景観(2014年3月18日文部科学省)」
日本遺産「出雲國たたら風土記～鉄づくり千年が生んだ物語～(2016年4月25日文化庁)」
日本農業遺産「たたら製鉄に由来する奥出雲の資源循環型農業(2019年2月15日農林水産省)」

しまね棚田めぐり旅

いわけ

奥出雲町

おくいずもちょう



いわけの棚田は、鳥根県の東部に位置する仁多郡奥出雲町にあり、地元農業法人と地元自治会により管理しています。

昔は、田んぼ一枚ごとに名前があり、その名前で区別していたようで、もともとは岩骸(いわがい)と呼ばれていました。

この棚田も奥出雲町で盛んにおこなわれていた、鉄穴(かな)流しで出来たもので、現在は30年以上前に圃場整備され、形が変わり、岩骸(いわがい)の地名も年月を経て、いわけと呼ばれるようになりました。眺望がすばらしく、中国山脈が一望でき、春夏秋冬様々な景色を見ることが出来ます。



田舎暮らし体験

一例



昔ながらの農業体験

田植え体験、草取り体験、稲刈り体験のコースを準備しています。
お米作りを通して「食」のありがたみや「食べること」の大切さを一緒に学びませんか？

そば打ち体験

奥出雲町の農家の指導の下、体験できるそば打ち体験です。そば作りの工程を一から本格的に体験することができます。



羽釜で炊いたご飯はおいしいよ！



松下光平さんも体験されました



景観を保つことは勿論ですが、それを広く皆さんに知って頂くために、毎年、田んぼの学校と称して、農業体験を提供しています。
それ以外にも、そば打ち体験、餅つき体験、笹巻作り体験等、年間を通じて楽しんで頂けるようにしています。
興味があればぜひ体験してみてください！

DATA

【所在地】仁多郡奥出雲町三所

JR松江駅から車で約60分、中国自動車道「三次東IC」から車で約60分

【田舎暮らし体験の申込・お問い合わせ先】

一般社団法人奥出雲町観光協会

☎0854-54-2260 9:00~17:00(年始年末を除く)

【概要】田畑の枚数:145枚、面積:10ha、農家数:24戸

【棚田米】農事組合法人「石原里田」(担当:和久利)

☎0854-54-0968

しまね棚田めぐり旅

ヨズクの里

大田市 おおだし

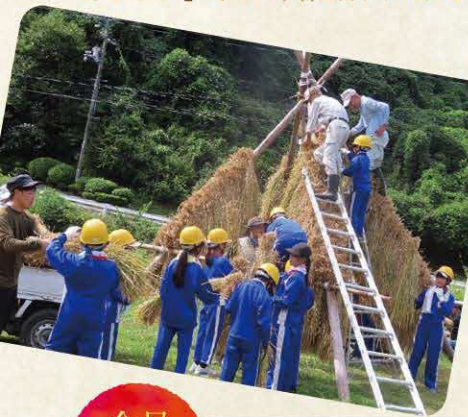


銀山街道要衝の地「西田」の「ヨズクの里」棚田は、日本のコメ作り100選にも選ばれた棚田です。

世界遺産に登録された「石見銀山」から銀や物資を運んだ「銀山街道」にある「西田」は、西田千軒と言われたほどの街道の宿場町として栄えました。

秋の風物詩「ヨズクハデ」

ヨズクとは、梟(フクロウ)のこと。四角錐の塔に巨大な梟が羽を休めて、うづくまっているように見えることから、「ヨズクハデ」と呼ばれるようになりました。高さは約5メートルあり、一基のハデに稲束が500束、約5俵分が架けられます。8月下旬～10月中旬に見ることができます。



全国でもここだけで見ることのできない稲ハデ「ヨズクハデ」は、平成21年1月にその製作技術が国の重要無形文化財に選定されました。現在、「西田ヨズクハデ保存会」が中心となり、後世へ技術を伝え、その景観の保全に取り組んでいます。

西田ヨズクハデ保存会

会員募集

酒仙蔵人・五郎之会

夢のある米作り酒造り集団「酒仙蔵人・五郎之会」は、会員120名で、幻の酒米「亀の尾」を栽培し、自分たちだけの純米酒造りによる交流活動を展開しています。当然、酒米は、ヨズクハデにかけ、「西田ヨズクハデ保存会」とともに棚田景観の保全にも取り組んでいます。

【問合せ先】若林酒造(有) ☎0855-65-2007 FAX.0855-65-3549
○五郎之会の活動及び会員募集は、若林酒造のホームページでも紹介しています。
<http://www.kaishun.co.jp>
E-mail:kaishun@s5.dion.ne.jp



令和6年1月26日に農林水産省が主催する「つなぐ棚田遺産」感謝状贈呈式が行われ、大田市の若林酒造有限会社に未来へつなぐ部門で農林振興局長より特別感謝状が贈呈されました。同社が主体で立ち上げた地域活性化集団の西田ヨズクハデ制作保存など永年の取組みが評価されたものです。



【所在地】大田市温泉津町西田

「JR大田市駅」から車で約35分

【保全組織】西田ヨズクハデ保存会 酒仙蔵人・五郎之会

【問合せ先】大田市産業振興部農林水産課 ☎0854-82-1600(代)

【概要】田畑の枚数:50枚 面積:6ha

農家数:30戸 起源:江戸時代

【イベント】酒米の田植え会・稲刈り会・寒仕込み体験会・蔵出し会
ヨズクハデライトアップ・棚田ウォーク



邑南町

おおなんちょう

上田・平佐

うえたひらさ

しまね棚田めぐり旅



国土を守り、命を育んできた棚田の一段一段には、先人の汗と涙がこめられています。江戸時代初期、砂鉄採取後に出た石を積んで田んぼにしたのがこの地の棚田の始まりであると伝えられています。清らかな湧き水と寒暖の差を活かして育てられたおいしい米がとれます。



棚田オーナー

【募集数】10区画程度(毎年1月～3月募集)

【作業】田植え(5月)・草取り(6～7月)・稲刈り(9月) 収穫祭(10月)

【料金】1区画(100㎡)39,000円/年

【特典】収穫米(100㎡あたり約40kg) 農産物を安価で購入など



▲はでかけ

稲刈り▶



▲田植え



▲収穫祭

棚田オーナーの声

「自分で米を作ることで食物のありがたみや、四季の移ろいを感じる事ができました。」

「田舎でいろいろな人と触れ合いながら、ほんの少し肩の力を抜いてリフレッシュできました。」

「自分の日常には無い空間が味わえ、自分で手をかけた米が食べられることが魅力ですね。」

【所在地】邑智郡邑南町上田
中国自動車道「三次IC」から車で約40分

【保全組織】上田・平佐棚田保存会

【問合せ先】上田・平佐棚田保存会 会長 永井 智行 ☎090-7775-1982

【概要】田畑の枚数:260枚 面積:16ha
農家数:25戸 起源:近世(江戸時代初期)

【棚田米】上田・平佐棚田龍王米

問合せ先:上田・平佐棚田保存会(担当:永井) ☎090-7775-1982

しまねの
棚田カード
参加地区

DATA



しまね棚田めぐり旅

神谷

かんだに

邑南町

おおなんちょう

日本の田選
日棚百



小さな集落と共に息づいてきた棚田。その棚田を囲むように生活道路が造られ、どこからでもすばらしい棚田の風景が望めます。

神谷棚田
保全組合

棚田の石積みと周辺の野山が、かもし出す景色は、なによりつつある田舎の原風景そのものです。
集落の高齢化が進むなか、「日本の棚田百選」に選ばれたことをきっかけに、集落ぐるみで棚田の保全活動に取り組んでいます。



棚田オーナー

- 【対象】農業に関心があり、自然と触れ合うことが好きな方、家族、グループ等
- 【作業】田植え(5月)・草取り(7月)・稲刈り(9月)
- 【料金】1区画(100㎡)あたり30,000円
- 【特典】収穫米(100㎡あたり30kg程度)

作業後、みんなでごはんをいただきます



▲田植え



▲稲刈り

DATA

【所在地】邑智郡邑南町上口羽
中国自動車道「三次IC」から車で約40分

【保全組織】神谷棚田保全組合

【問合せ先】神谷棚田保全組合事務局

福田誠治 ☎0855-87-0249, 090-1680-4722

【概要】田畑の枚数:80枚 面積:5ha

農家数:12戸 起源:近世(戦国時代~江戸時代)

【棚田米】神谷棚田米

問合せ先:神谷棚田保全組合(担当:福田)

☎0855-87-0249, 090-1680-4722

しまねの
棚田カード
参加地区

しまね棚田めぐり旅

来尾

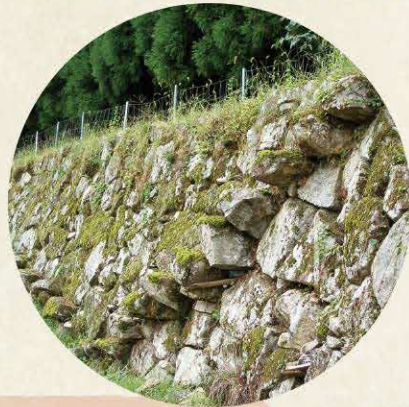
浜田市 はまだし

きたお



来尾地区は山の斜面が急なため、石を積み上げて田んぼを造らないと面積がとれないことから、昔の人々が苦労して造り上げたのがこの棚田です。

棚田は昔の人々の知恵の結集なのです。



工夫された石垣

石垣は大小の石を組み合わせで築いてあります。山の斜面が急な来尾地区では石垣が高く、高さが3m～5mあるものもあります。中には、階段になるように石を突き出して積み上げている石垣もあります。

ほたるこい祭り



～ほーほーほたるこい祭り～

市木地区では、毎年6月第4土曜日に市木ふれあい広場(旧市木小学校)で、「なんと舞いんさる!ほーほーほたるこい祭り」を開催しています。

当日は、有志による出店や、石見神楽をはじめとした様々な模様し物が披露されます。日暮れからは会場そばの八戸川でほたるが飛び始め、初夏のひと時を満喫できます。



【所在地】浜田市旭町来尾
浜田自動車道「瑞穂IC」から車で約20分
【問合せ先】浜田市旭支所産業建設課 ☎0855-45-1437

【概要】田畑の枚数:14枚 面積:0.45ha
農家数:17戸 起源:江戸時代
【イベント】ほたるこい祭り(6月)





都川の棚田は石垣棚田。県道からの眺めは、江戸末期に築かれた城塞のような石垣郡に圧倒されます。

その姿は春夏秋冬 姿を変え、四季を通じて日本山村の原風景を楽しむことができます。

また、令和4年には「つなぐ棚田遺産～ふる里の誇りを未来へ～」にも認定され、毎年春に行う「棚田トレッキング」を通して、地区内外に都川の魅力を広く紹介しています。



今からおよそ800年前、開拓のために京都からこの地に移り住んだ夫婦が、この地を流れる川が京都の加茂川に似ていることから「都川(つかわ)」と呼んだのが始まりとされています。



棚田の石垣の維持管理はたいへんです。石垣が生えた雑草を放置すると石垣がもろくなり崩れます。大切な棚田を守るため、年に3回の手作業で草取りをしています。



健康ウォークin都川「棚田トレッキング」

石垣の階段を登ったり畔や林道を歩いて、都川の里の原風景を楽しんでもらっています。

「日本の棚田百選」認定地区

つかわ たなだ

都川の棚田

都川の棚田

静かな山里の原風景、整然とした石垣が美しい。都川地区の棚田は「文化的景観」重要地域及び「日本の棚田百選」にも選定されている。ふるさとの貴重な財産です。

歴史は江戸時代にさかのぼり、当時盛んに行われていた鉄を採るための「鉄穴(かん)流し」によって出た残土を利用して、農地を造成したことが現在の「棚田」の景観を作り出したといわれています。

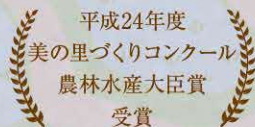
棚田は、急傾斜かつ不整然であるため、維持管理が大変困難ではありますが、ふるさとを愛する人たちの手、そして心で守られ受け継がれています。

■面積 約六七ha
■枚数 約二〇〇枚



【所在地】浜田市旭町都川
浜田自動車道「旭IC」から車で約20分
【問合せ先】浜田市旭支所産業建設課 ☎0855-45-1437

【概要】田畑の枚数:50枚 面積:4.4ha
農家数:11戸 起源:江戸時代
【イベント】棚田トレッキング(5月最終土曜日)





しまね棚田めぐり旅

坂本

濱田市 はまだし

さかもと

坂本米の生産地「坂本」は古来より稲積原と呼ばれ、土地が高燥で日光がよくいきわたり、水は清く、土質が米作に適して、そのうえ米穀貯蔵上よいところといわれてきました。

水源となる雲月山は全山が花崗岩風化土(マサ土)でなりたち、薄く火山灰に覆われています。1800年ごろから鉄穴(かんな)流しが行われ、先人たちは、砂鉄を採取した際に発生した土砂と石材を利用して坂本川を中心に耕地を広げていきました。

人々が牛を使い、刈り取った芝草とたい肥をすきこんで苦勞して耕作を続けた小さな棚田は、昭和53年～昭和58年に圃場整備を行い1枚あたり1,000㎡規模に拡大されました。



春の田植え直後のみずみずしい圃場の連なり、黄金色の稲穂が輝く実りの秋、田舎の原風景に出会える場所です。

浜田・旭のうまいもん『坂本』(坂本米)

名峰雲月山から流れる清らかな水には、ブナやミズナラの落ち葉から溶け出したミネラルが含まれ、鉄分を含んだ土壌やと昼夜の寒暖差により良質なお米が育まれます。

強い甘みと豊かな香りが特徴で、ご飯そのものの味をしっかりと味わえます。

“おかわりもう一杯”



平成31年1月に「農事組合法人さかもとのもと」を設立しました。



マスコットキャラクター「さかもとまいちゃん」

DATA

【所在地】浜田市旭町坂本
 浜田自動車道「旭IC」から車で約15分
 【保全組織】坂本自治会・農事組合法人さかもとのもと・坂本環境保全組合
 【問合せ先】浜田市旭支所産業建設課 ☎0855-45-1437

【概要】田畑の枚数:191枚、面積:18ha
 農家数:35戸 起源:江戸時代(1800年頃)
 【米販売】四つ葉振興会
 ☎0855-45-1757(今市公民館内)

しまねの
棚田カード
参加地区

しまね棚田めぐり旅

室谷

浜田市
はまたし

むろだに

日本の田選
日棚百選




今年も棚田には黄金色に輝く稲穂が実り、その向こうには日本海の大海原が望めます。

江戸時代以前の鉄穴(かんな)流しによって出来た、たくさんの窪地を水田にしたものが棚田の始まりだと思われています。大麻山神社の庭園と大麻山麓には「石郷路(いしごうろ)」と呼ばれる石英閃緑岩の岩海が点在し遊歩道で散策できます。大麻山の麓に広がる棚田と日本海を眺望できます。



棚田
もりあげ隊



地域の有志により「棚田もりあげ隊」が結成され、かかし作りやイルミネーションなどを行い、棚田を盛り上げています

私たちは、棚田を耕し土づくりに励み、美味しいお米が収穫できるよう努めています。棚田と自然に囲まれた地形のなか、人々が室谷を訪れ、棚田を愛でる。それが棚田を守る原動力となっています。そんな室谷は今日も元気で。

是非、見どころいっぱい
の室谷にお出掛けください。

両谷連合自治会長



室谷棚田シンボルマーク
石正美術館作成



▲室谷の棚田米

DATA

【所在地】浜田市三隅町室谷
山陰道 浜田・三隅道路「石見三隅IC」から車で約10分
【保全組織】両谷連合自治会
【問合せ先】浜田市三隅支所産業建設課 ☎0855-32-2803

【概要】田畑の枚数:約700枚 面積:20ha
農家数:45戸 起源:江戸時代以前～
【棚田米】室谷の棚田米
問合せ先:米作り研究会代表 齋藤久行
☎0855-34-0856

平成24年度
美の里づくりコンクール
審査会特別賞
受賞

しまねの
棚田カード
参加地区



しまね棚田めぐり旅

中垣内

なかがうち

日本の田選 日棚百選

益田市

ますだし

中西地域づくり事業 下平ひじり岩周辺 (日本の棚田百選) 案内板

益田市のゆかりの万葉歌人・柿本人麻呂に詠まれた打歌山(うつたやま)【大道山の別名】の裾野に広がっており、平均勾配1/4の斜面に石積みしたもので平安時代に形成されたといわれています。最も耕作がされていた時には、約4千枚の棚田が地域の景観を彩っていましたが、現在はその一部がその姿を残しています。

益田市ゆかりの万葉歌人・柿本人麻呂に詠まれた打歌山(うつたやま)【大道山の別名】の裾野に広がっており、平均勾配1/4の斜面に石積みしたもので平安時代に形成されたといわれています。最も耕作がされていた時には、約4千枚の棚田が地域の景観を彩っていましたが、現在はその一部がその姿を残しています。



▲ 棚田の上には、地域で盛んであった芝居用に建てられた舞台(人力で回す回り舞台)があり、今でも活用されています。

【所在地】益田市中垣内町
 「JR益田駅」から車で約25分 中国自動車道「六日市IC」から車で約90分
 【問合せ先】益田市農林水産課 ☎0856-31-0316
 【益田市ホームページ】<http://www.city.masuda.lg.jp/>

【概要】田畑の枚数:376枚 面積:6.2ha
 起源:平安時代～室町時代





しまね棚田めぐり旅

大井谷

おおいだに

吉賀町

よしからちょう

日本の
田選
百棚



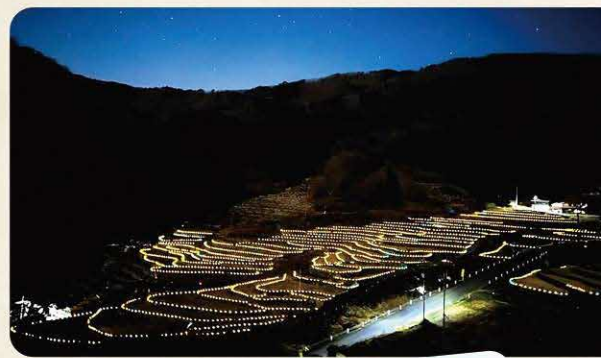
大井谷は、古文書「吉賀記」によると、今からおよそ600年前に大内氏(山口)に仕えた三浦一族がこの地に入り、開拓したのが始まりと言われています。以来、室町時代から江戸時代にかけてつくられた棚田が今も600枚以上残っています。

地域全戸が参加する「助(たすけ)はんどうの会」では、棚田オーナー制度を通じた都市住民との交流に取り組み、棚田を活かした地域づくりを進めています。



助(たすけ)はんどう

大井谷地区の一番上の屋敷の横に据えてある直径1.2m、深さ30cmの石の水がめのことで、その昔干ばつの時にここだけにわずかに溜まる水を飲んで住民が生き延びたことから「助(たすけ)はんどう」と呼ばれるようになりました。はんどうとは「水がめ」のことです。



▲ライトアップ



▶柿木小学生による田植え

棚田オーナー

- 【募集数】25区画程度(随時募集)
- 【作業】田植え(5月中旬)・草取り(6月下旬)・稲刈り(9月中旬)
- 【料金】基本料金:36,000円/年
面積によって変わります(基本面積100㎡)
- 【特典】収穫米(約30kg)、農産物の宅配など

棚田トラスト

- 【募集数】無制限
- 【料金】①棚田米コース 1口 10,000円 【特典】大井谷棚田の新米5kg
②しまね棚田カードコース 1口 1,000円 【特典】しまねの棚田カード



田植えや稲刈り体験ができる!

は助(たすけ)はんどうの会

600年前に先祖が築いた棚田を「自分の代で荒らしてはならぬ」という思いで耕し続け、次の世代に受け継ぐために棚田保全に努めてきました。

今では棚田オーナーやライトアップの見学にたくさんの人たちが訪れ、静かな棚田が活気づき、自分たちの宝物であるいきづく棚田を再認識することで、一年を通しての農作業も楽しめるようになりました。

DATA

【所在地】鹿足郡吉賀町柿木村白谷
「JR益田駅」から車で約60分 中国自動車道「六日市IC」から車で約40分
【保全組織】助はんどうの会
【問合せ先】吉賀町産業課 ☎0856-79-2213
【吉賀町ホームページ】http://www.town.yoshika.lg.jp/

【概要】田畑の枚数:600枚 面積:6ha
農家数:13戸 起源:室町時代～
【棚田米】大井谷棚田米
問合せ先:道の駅かきのきむら ☎0856-79-8024
【イベント】ライトアップ(10月中旬ごろから約1か月点灯)

しまねの
棚田カード
参加地区

棚田の多面的機能

多面的機能とは 農業・農村にはお米や野菜などを作るだけでなくいろいろな働きがあります。

洪水が起きないようにする



大雨がふっても川があふれないことがあるけどなぜ？

田畑は、水を一時的にためることができます。

田は周りをおでで囲まれているため、また畑は土のすき間が多いため、水をためることができます。このため、洪水を防ぐことにも役立っています。大雨がふった時に田に余分にためられる水量は、全国で約50億㎡^{※1}になるともいわれています。これは東京ドーム(124万㎡)^{※2}の約4,000杯に相当します。

※1) 日本学術会議「地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的な機能の評価について(答申)」(平成13年11月)及び関連付属資料
※2) 東京ドームシティホームページ

土砂くずれや土の流出を防ぐ



田で米を作っているのは、土砂くずれを防ぐことと関係がある？

日ごろの手入れと耕すことで、土砂くずれを防いでいます。

田畑はこまめに手入れをすることで、ひびわれなどを早期に発見することができます。また耕すことで、田畑にためられた水はゆっくりと地下にしみこむようになるため、地下水が急に増えるのをおさえ、土砂くずれなどの災害を防ぐことにつながります。また田では水をはることで、雨や風が直接土に当たらず、土が流れ出るのを防いでいます。

美しい風景をつくる



このきれいな風景はどうやってできたのだろう？

農業の営みや家屋、里山が、美しい風景をつくっています。

農村では農業が営まれることによって、作物や農地、農家の家屋、周辺の水辺や里山が一体となって、美しい風景をつくっています。

詳しくは、農林水産省ホームページをご覧ください。
URL:http://maff.go.jp/j/nousin/noukan/nougyo_kinou/



アクセスマップ ACCESS MAP



棚田のお米がおいしいのは...

- 昼夜の温度差
- 清らかな水
- 農家の手間

棚田の恵みと農家の愛情が育んだ棚田米をご賞味ください。



【日本の棚田百選】

日本の棚田の多くは長い歴史を有し、国民への食料供給にとどまらず、国土の保全、良好な景観の形成、伝統文化の継承等に大きな役割を果たしてきました。こうした多面的な機能を有する棚田について、その保全活動を推進すること等を目的として農林水産省は、平成11年に優れた棚田134地区を「日本の棚田百選」として認定しました。選定にあたっては、①営農の取り組みが健全であること、②棚田の維持管理が適切に行われていること、③オーナー制度や特別栽培米の導入など地域活性化に熱心に取り組んでいることを基準としています。島根県からは7地区が認定を受けています。

【つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～】

日本の棚田百選の認定から20年以上が経過し、棚田地域では担い手減少や農家の高齢化等により従来のような保全活動が難しくなり、棚田が荒廃の危機に直面している中、令和元年には、待望の棚田地域振興法が施行されました。これを受け、農林水産省では、棚田地域の振興に関する取組を積極的に評価し、棚田地域の活性化や棚田の有する多面的な機能に対する一層の理解を深めるべく改めて優良な棚田271地区を「つなぐ棚田遺産」として認定しました。島根県からは11地区（うち10地区本誌掲載）が認定を受けています。



しまね棚田元気ネット

島根県内の棚田14地区と関係機関で構成する「しまね棚田ネットワーク」では県内各地の棚田で取り組まれている保全活動の様子やイベント情報を「HPしまね棚田元気ネット」で発信しています。

しまねの棚田 検索



このパンフレットは島根県中山間地域等活性化基金(中山間ふるさと・水と土保全推進事業)で作成しました。

【発行】島根県農林水産部農村整備課
〒690-8501 島根県松江市殿町1番地
☎0852-22-5147 FAX0852-55-2672
E-mail:nouson@pref.shimane.lg.jp